



足元の米国株急落の背景と今後の見通し

- 2月5日の米国株は前日比4.1%の大幅下落。米国株下落の要因は金利上昇懸念からプログラム取引の売りにシフト。
- 米国企業の2018年の業績見通しは底堅い増益が見込まれ、足元の株価急落により米国株の割高感の修正が進む。
- 米国株の変動増大の背景にはFRBの体制移行への不安も影響。FRB新体制の「市場との対話」が市場安定化のカギ。

プログラム取引による売りが米国株急落の背景

2月5日の米国株式市場では、S&P500指数が前日比4.1%の大幅下落となり、短期的に米国株の調整色が強まる展開となりました(図1上段)。

市場関係者の間では2月5日の米国株急落の背景は、株価変動(ボラティリティ)への懸念に起因したプログラム取引による機械的な売り拡大にあるとみられています。1月29日～2月2日の米国株の下落局面では、米国経済の好調を背景にした金利上昇懸念が株安を主導してきましたが、2月5日の市場ではVIX指数(先行きの株価変動予想)の急上昇へ株安の要因がシフトしました。(図1)。

株価急落により米国株の割高感の修正が進む

米国企業の2018年の業績見通しは、税制改革の効果を織り込んだ上方修正が進み、底堅い増益が見込まれています。足元での株価急落によってS&P500指数の12ヵ月先予想PERは17.16倍へ低下しており、米国株の割高感の修正が進みつつあります(図2)。

FRBの「市場との対話」が米国株の安定化のカギ

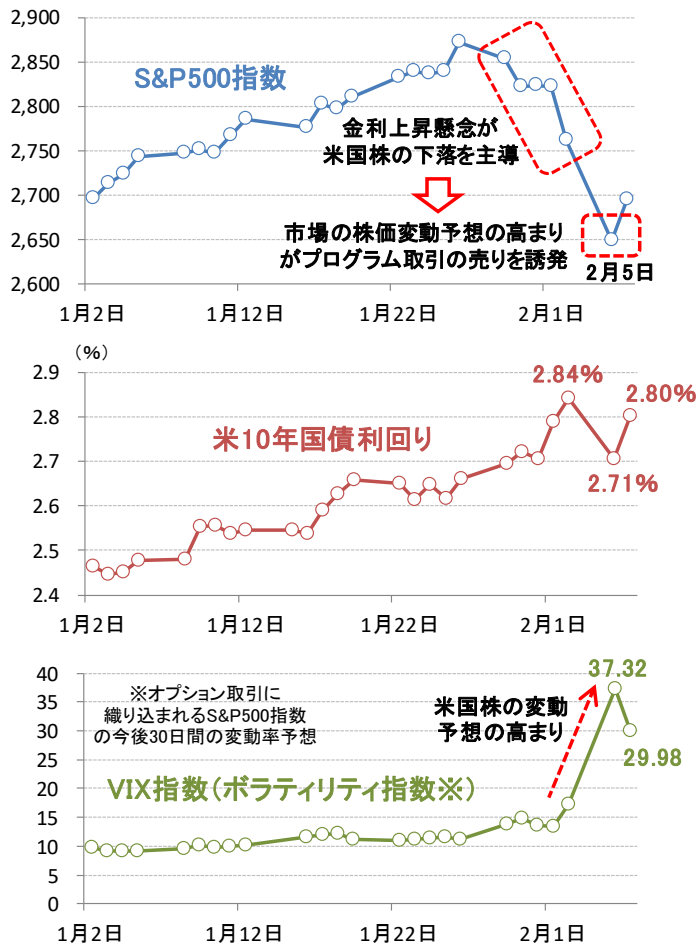
2月6日の米国株式市場では、S&P500指数が前日比1.7%の上昇となり、米国株の下落に歯止めがかかりました。当面はVIX指数の上昇やプログラム取引による売りが一巡するまで米国株の相場変動には注意が必要とみられますが、市場が安定に向かう過程で米国株への見直しが広がる可能性もありそうです。

また、足元で米国株のボラティリティへの懸念が増した背景には、体制移行に伴う米連邦準備制度理事会(FRB)の政策運営への不安も影響していると考えられます。当面は、2月28日と3月1日のパウエル新議長の議会証言や3月20-21日の米連邦公開市場委員会(FOMC)において、円滑な「市場との対話」が図られるかが米国株式市場の安定化のカギとなりそうです。

(関連マーケット・レター)

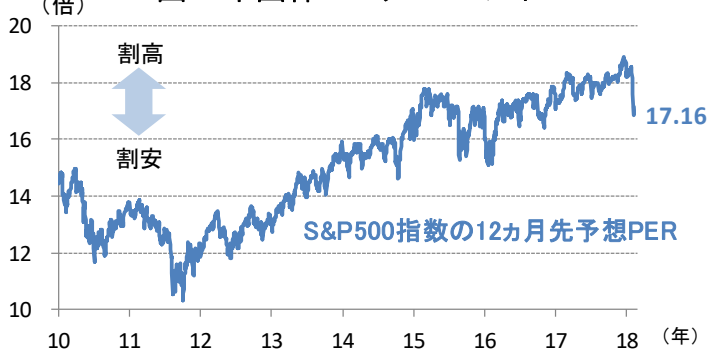
「米国株は金利上昇の中でも上昇相場を維持するか」(2月1日)

図1: 2018年初来の米国株、米長期金利、VIX指数



(出所)ブルームバーグ (期間)2018年1月2日～2月6日

図2: 米国株のバリュエーション



(出所)ブルームバーグ (期間)2010年1月1日～2018年2月6日

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。